

## 福島第一原子力発電所 土壌中の Pu 測定結果

## 1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日	Pu-238	Pu-239, Pu-240
①グラウンド(西北西約 500m)	3月25日	$(1.4 \pm 0.31) \times 10^{-1}$	$(8.7 \pm 2.3) \times 10^{-2}$
②野鳥の森(西約 500m)	〃	N. D.	N. D.
③産廃処分場近傍(南南西約 500m)	〃	$(6.6 \pm 2.0) \times 10^{-2}$	N. D.
④5,6号機サピスビル前(北約 1,000m)	〃	N. D.	N. D.
①グラウンド(西北西約 500m)	3月28日	$(2.6 \pm 0.22) \times 10^{-1}$	$(1.2 \pm 0.14) \times 10^{-1}$
②野鳥の森(西約 500m)	〃	N. D.	N. D.
③産廃処分場近傍(南南西約 500m)	〃	$(5.1 \pm 0.83) \times 10^{-2}$	$(2.6 \pm 0.58) \times 10^{-2}$
国内の土壌*		N. D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$	N. D. $\sim 4.5$

※ : 文部科学省「環境放射線データベース」昭和53年～平成20年

## 2. 評価

検出された Pu-238 と Pu-239、240 の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、3月25日および28日にグラウンドで検出された Pu-238、3月28日に産廃処分場近傍で検出された Pu-238 は、Pu-239、240 に対する放射能比 (Pu-238/Pu-239, 240) がそれぞれ 1.6、2.2、2.0 であり、過去の大気圏内核実験の影響として示されている放射能比 0.026 を超えていることから、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

また、グラウンドにおいては、3/21にサンプリングした試料からも Pu-238 および Pu-239、Pu-240 が検出されているが (それぞれ、 $(5.4 \pm 0.62) \times 10^{-1}$ 、 $(2.7 \pm 0.42) \times 10^{-1}$  Bq/kg)、大きな変化は見られていない。

以 上